

海外勤務の思い出

元 橋 和 之*

常識：この言葉を私は嫌いです。「常識」を英語で言うと〔思慮分別〕はcommon sense,〔周知のこと〕は common knowledge,〔妥当なこと〕は common practiceや ordinary sense という。客筋の会社の人たちがよく口にするのは、「えっ！知らないの？ こんな常識だよ」こう言われたことはありませんか。

「常識」より「良識」のほうが大切だと思います。これはgood sense といいます。三興・ド・ブラジル時代には、“Bon senso é mais importante do que senso comon” でした。本当は常識の中に良識も含んでいるようです。英英辞典によると、common sense : ordinary good sense or sound practical judgment とあります。言葉は時代と共に変わり、常識も変わります。より多くの人々が認めると常識になります。常識は国、地方によって変わります。そう、郷に入れば郷に従えです。

日本と違う外国の常識をここで少し紹介してみましょう。現在は少し変わっているかもしれませんが、念のため。

1. ブラジルにて

① 夜の無灯火運転

都会の中は照明灯が完備しているので、100%の前照灯をつけては走りません。車幅灯だけです。なまじ点けているといやな顔をされます。

② トンネルの中のクラクション

陽気な国民のためでしょう。みんなクラクションを鳴らします。その反響を楽しんでいるのです。日本の若者が変な音を出しながら走るのと似ていますが、日本ではいけません。

③ 九十九曲がりの追い越し

すごいノウハウですこれは。山道で追い越したいのろのろの車がある場合、まずこちらの前照灯を消します。すると前の車も消します。じっと目を凝らし灯りがちらちらしないことを確認してから、追い越します。山道でくねくねしている所だけです。日本では絶対にやってはいけません。

④ 銀行強盗にあってない銀行

銀行強盗にあってない銀行は一つもないと聞きました。それくらい流行っていました。損害が出ると保険会社から金が出るので、銀行がわざと手引きをしているのでは？という人もいました。

*株式会社 三興

⑤ 警官には要注意

神聖なる警官を会社の私の親しい運転手は「泥棒」と呼んでいました。日本の神奈川県警、埼玉県警も顔負け？かもしれません。クリスマス近くなると、路上に出てなんだかんだと文句を言います。面倒なので50リアル（≒2500円）をにぎらせると、「うちは子供が5人いる、これでは足りない」。白昼かっぱらいにあった社員がポリボックスに駆け込んだら、「今非番中なので」。

⑥ 高速道路の検問

高速道路のところどころに警察の検問所がある。普通は徐行して通るのみ。時々金欲しさにいちゃもんをつけられる。私の経験から、「お前はものすごいスピードで走っていた、何キロで走っていたのか」「??どうしてそんなことを言うのか」「お前の前を走っていた車が言っていた」「だったらそいつの方がスピード違反ではないのか」「もういい、行け」ですって。

高速道路で中央分離帯がないところが結構あり、三角形のとんがり帽子を置いているだけです。サンパウロとサントスを結ぶ道路では、行楽客の便をはかり、時間帯によってとんがり帽子を動かします。日本も真似すればいいのに。

⑦ 自動車の窓には泥棒よけロック

自動車メーカーからの車をそのまま使っていると必ず盗難に遭いました。フォルクスワーゲンには三角窓があり、そこからドライバーを差し込みロックをはずし中に侵入するのです。買ったばかりの車を路上駐車し、数ヵ月後、パンクしたのでスペアタイヤを出そうとしたら盗まれていました。新しいタイヤを買って置いたらそれも盗られました。

私設臨時駐車場では係員が1台でも余計に駐車させようとします。駐車時にはサイドブレーキは引きません。わかりますか？この理由が。道路に出て行くときあまりにもビタリと並んでいるので、バンパーで少しずつ押しながら隙間を広げるのです。バンパーは傷だらけでも平気の平左です。

⑧ 昼飯のビール

白バイの警官2人がレストランで昼飯を食べていました。そばにビールびんが立っています。この国ではアルコールに寛大なのでしょう。アルコール車が多いからでしょうか。サトウキビからアルコールをとって燃料に使っています。ですから街中の空気は何となく甘いにおいがただよっています。

⑨ 100kmの距離なら1時間

ブラジルの面積は日本の23倍あります。移動手段は飛行機か自動車です。陸路の場合、長距離バスか自家用車です。目的地が450キロメートルなら4時間半で行くといえます。高速道路でなく一般道でも大抵、120～130キロのスピードで走ります。近くに美味しいレストランがあるよ、と運転手が言うので、乗ったら25キロもありました。日本の感覚とずいぶんずれています。

町と町を結ぶ道路は殆どが真っ直ぐです。サンパウロからリオまで行くアンシェッタ高速道路で測ったことがあります。14km真っ直ぐなところがありました。途中には勿論、横断橋などありません。なぜならば有事の際にはジェット戦闘機が着陸・離陸できるようにしてあります。

⑩ 道路を走るのは泥棒だけ

そうです、歩くときはみんなブーラブーラ歩きます。マレーシアでも同じでした。そのくせ車に乗ると飛ばします。道路を走っているのはかっぱらい（トロンバジンニョ）だけです。

この習慣は素晴らしいものです。道路で人が車にはねられるというのは少ないようです。日本の小学生に言いたい。“交差点では絶対走るな”と。信号のないところでもブーラブーラ歩いていれば、運転手の方でよ避けてくれます。日本では渡っている途中、赤になったら小走りするぐらいにとどめたいものです。

⑪ 美人が前を通ったらパッシングライト

信号待ちしている交差点で、目の前を美人が通ったらピカッピカッとします。しないと淋しそうな顔をするのです。私は大したことはないのかしら、と。

⑫ スカートよりパンタロンそしてスッチャン

日本人はスカートが合っています。足が短い上に、太いからです。すらっとして長い足の方はパンタロンが似合います。何か矛盾していると思うでしょうが、事実です。

面白いのはブラジルではパンティーの線がくっきりしていました。日本では見えないように工夫しているのに。このことを会社のブラジル人女性社員に聞いたら、線が見えないのは穿いていないようでもっといやらしいですって。

ブラジルはかなり暑い気候ですが、とっても素敵だったのがスッチャンでした。金太郎の小さいもので薄い布一枚だけです。ブラジル式ブラジャーでしょうかね。とはいえこれは下着ではなくれっきとした服の一種です。本物のブラジャーなしでこのスッチャンだけをつけて出勤です。小さいサ克蘭ボが二つプチプチと見えるのはなかなかのものでした。今でもあるのかしら？ 伝統文化として残したいものです。

⑬ 人食い人種地域の旅行は2台で

アマゾン川の北側でスリナムの南側あたりには、まだ人食い人種がいるそうです。そこを通過しなくてはいけない場合、1台の車では通行は禁止されています。最低2台。出発する時、無線で相手側に連絡する義務もあります。ガソリンは勿論、満タン。途中で1台がパンクしても修理できません。その場合、すみやかにもう1台に乗り移らないと、襲われるそうです。

2. モロッコにて

① 羊の邪魔はしてはいけない

羊はイスラム教の人にとって、神への捧げ物ゆえ大事にしています。20~30頭ぐらい引き連れて道路を散歩(?) 移動しますが、車はその通行を邪魔してはいけません。

(追) ブラジルの葬儀の車と同じ扱いです。これから墓地へ向かうとき前照灯を半分の灯りにして進みます。赤信号も素通りです。他の車も心得ていて決してクラクションなど鳴らしません。

② ウサギはすぐに殺してもらう

市場へ行くと生きた動物を売っています。ウサギも食料になるとは知りませんでした。買い求めるのはフランス系の主婦です。あれこれみつろって売り手にこれを頂戴という、売り手は耳をつかみ首のあたりにナイフを入れ即死させるのですが、その後がものすごい。首のあたりの皮をはがすと、セーターを脱がせるごとく、足の方まで一気に剥いてしまうのです。とても日本の子供には見せられません。

③ タバコは1個ずつ買う

見知らぬ外国へ行くとその国の色々なタバコをすってみたくなるものです。タバコ屋で10種類くらい買うと、もう大変。合計金額が分からないのです。彼等の計算は全て合計してから紙幣額から引く、ということをしなくて、紙幣額から一つずつを引いていくのです。3~4分かかります。よってこういう事はしてはいけません。1種類にすべきです。同じ物を数個買うのはOKです。

④ 街灯の下で勉強

モロッコで一番感動したのがこの風景でした。電力事情がよくないし、家に電気を引いていない家も少なくはなかったようです。そういう家ではローソクを使っています。お金もかかるし、暗いし勉強にはむいていません。昔、蛍のあかりでとか、雪のあかりで勉強したところから「蛍雪」という熟語が残っています。モロッコの中学生は街灯の下で勉強していました。

⑤ 猛暑のときは窓を開けない

現場事務所で初めて40度以上を体験しました。暑いのを乗り越えて、ほおーっとしていました。クーラーも効かなくなりミーティングどころではありませんでした。

半分砂漠地帯を自動車で行中、猛暑に出会いました。クーラーも効きません、窓を開けるともっと暑くなるので、閉めたままの方がいいそうです。50℃近くなると、辺りはしーんとしてきます。太陽もぎらぎらではなく全てが死んだようなどんより状態です。

⑥ ロータリー式交差点

ブラジル、モロッコ、マレーシアにもありました。日本にはほとんどないスタイルです。回っている車が優先です。交通量の少ない交差点では有効ですが、通行量

が多くなると渋滞の元凶となります。

⑦ 暴走防止のふくらみ部分（日本語で何と言うか知りません）

これは日本にもあり、病院、図書館、団地内などにあります。これを無視して普通に走ると大きくバウンドして頭を天井にぶつけます。なんとというか、フランス語かアラビヤ語は忘れました。ポルトガル語ではケブラモーレと言って車のスプリング壊しの意味です。マレーシアではスリーピングボリスと言っておりました。

3. マレーシアにて

① 異教徒はモスクに入れない

タリバンでご存知でしょうが、イスラム教は厳格で、女性軽視のところがあります。異宗教の人はモスクには入れません。建物の中のみならず、周りの写真をとりに行っても、お祈りの時間が来ると庭からも出て行けといわれます。お祈りは裸足で持参した小さなカーベットにひざまずくのです。女性は別室でお祈りです。女性の部屋からは牧師？さえ見えません。なぜこんなことを知っているかって？住んでいたアパートの庭に小さなお祈り場があったのです。

あの耳障りなコーランでいつも目がさめます。時には女性もやっていました。耳障りと書きましたが、仏教とて同じです。お坊さんのお経も節をつけて朗々とやっていますから。

② 箸の代わりは自分の手

日本人にもぎり寿司は手で食べます。東南アジアではほとんど手で食べます。ブラジルでは手で食べるのを見たことはありません。東南アジアでフォークはほとんど見かけず、スプーンを切る道具にしています。チャーハンぐらいなら手も分かるのですが、カレーも手で食べます。べとべとで気持ちが悪くないのかしら。左手は決して使いません。左利きの人は不便でしょうね。

③ 都会のガソリンスタンドはセルフサービス

高速道路沿いのスタンドは係員がやってくれますが、市街地内ではほとんどセルフサービスです。窓口へ行って30リングット（≒1050円）とって支払うと、その分だけセットしてくれます。あのガソリン蛇口は少し重いのが難です。満タンにしたときは、50リングット（≒1750円）払ってfullと言えればいいのです。終わったら窓口でfinishといえおつりをくれます。

日本のセルフサービスのスタンドでは、給油装置の近くのコントローラーで、レギュラー何千円分と入力してOKすれば、給油できます。終わってから事務所で支払います。危ないシステムですこれは。案の定、入れ逃げが時々あるそうです。

④ 傘はささない

熱帯の天気は変わりやすいのです。いつザア-ときても不思議ではありません。テレビの天気予報はいつでもどこでも所によって雨、といえます。台風並の雨量な

ので傘など役に立ちません。それで持っていないようです。

昼間外出してから、汗をかかないのははじめの頃は5分間でした。2年間ぐらいいると慣れてきて15分間は汗をかかなくなりました。外出時には晴れでも傘は携行したものです。ハゲに沁みますから。日本にいても、今でもこれは守っています。

⑤ 豚肉ご法度

以前どこかに書きましたが、イスラム教徒は no pork, インド人は no beef, ベジタリアンは no meat, チャイニーズは no iron または no stone ですって。

⑥ トイレトペーパーでなく水で洗う

ほとんどのトイレにはトイレトペーパーなどありません。あるのはゴムホースつきの水道の蛇口だけです。考えてみるととても衛生的です。でも難しいのでやらない方が無難です。ズボンやスカートを濡らすだけです。

⑦ げっぶは美德

日本のエンジニアリング会社に研修にきていたマレーシアの女性エンジニア2人は、よくげっぶをしていました。教養のある美人なのになぜか不思議でした。

マレーシアで工事設計の仕事をしたとき、この件を中年の女性に聞いたところ、驚きました。「げっぶは悪い習慣ではない。今でも50%の人がやっている。というのは、ある家に食事を招待されたとする、もてなしを受けて腹いっぱい食べたのもう入らない、というのを表現するのがげっぶである。げっぶされた方も満足する」というものでした。驚きですね。

⑧ 5人乗りオートバイ

マレーシアでは70ccが普通に乗られています。乗員は2名。でも大人が二人乗るとやはり危険です。乗用車に比べガソリンも食わないので、大変人気のある乗り物です。一家そろって一台のオートバイを使っています。夫婦に子供一人の3人乗りは当たり前。警察も規制していません。夫婦に子供2人は時々見ます。でも子供3人はめったにお目にかかれませんでした。石につまづいたり、穴にはまると一家全滅です。真似しない日本はいい国です。

⑨ 2輪車の高速代はただ

日本のオートバイ愛好者にはうらやましい話です。トルゲートには2輪車専用の通り道があります。勿論4輪車が抜けられない狭さです。全国どこまで行ってもただ。国土交通省も右へ習えすべきでしょう。オートバイの運転手が料金を払うのはとても時間がかかるからです。

⑩ レンタカーは止めよう

マレーシアに初めての旅行者はレンタカーなど借りないことです。その国特有のルールがあるからです。トンネル内では、右のウインカーをつけっぱなしで走ります。車幅を対向車に知らせるためでしょう。日本でこれをしたらどうなるか？ 対向車はびっくりして止まってしまうか、どやされてけんかになるかでしょう。よっ

て日本ではしないこと。また、大雨で前がはっきりしない時は、前照灯をつけ、かつ非常灯を点滅しながら走ります。前述のように右のウインカーをカチカチさせながら走る車もありました。マレーシアに限らず、初めての国のレンタカーはやめた方が無難です。

少しは役に立ったのかしら、心配です。

